2016年10月05日記者会見

【国道2号高架延伸事業の再開について】

記者

 　国道2号高架について、西広島バイパスですけれども、この延伸事業について、先日の市議会一般質問で、早い時期に再開の見通しを示したいとの局長答弁がありました。いつ頃を目途に見通しを示されるお考えかをお聞かせください。

市長

　まず、国道の2号高架延伸事業、ご存じだと思いますけども、位置付けは、広島の西部の地域から都心部に向かっている交通です。この渋滞緩和であるとか、沿道の環境改善を図るということに役立ちますし、更には、それらが様々な効果を発揮すれば、我が市の中枢性の向上にも役立つ、そんな事業だと基本認識があります。

　た2だ、そういった事業ではあるのですけれども、先日の議会でも言っていますが、国へ事業の中断を申し入れたという経験を持つこの我が市でありますから、それについてどうするかということを問われたという局面なのですけども。ただ、事実とすれば、国への事業中断を申し入れた後に、市議会から延伸するべきだという決議も受けたりしているという状況が1つあります。それから、昨年の6月には、この事業差し止め訴訟が終局したということですが、最高裁の決定がくだされました。そして、それまでは様々な意見がある中で、最終的に、この決定の中で、都心部に延伸されることによって渋滞が緩和され、騒音が軽減する可能性が高いという見解も得られましたので、先程申し上げた、国道2号高架事業の役割そのものも、司法の場でも認められたという認識です。

　そして、現在見てみますと、西広島バイパスの庚午出口等では依然として、渋滞がありまして、いわば県内屈指と言って差し支えないような渋滞状況ですから、やはりこの事業、必要性が高いなという基本認識でいるということです。そうした状況が１つあるのですけども、こういった事業、全市的に色々展開するという時に、他との事業バランスもあります。すなわち、私自身は200万人の都市圏構想実現ということも掲げております。そのために、重要となるのは、東広島・安芸バイパスの整備であるとか、それから広島南道路の全線に向けた取組です。我が市に流れ込む基本的な幹線をきちっと整えるということも重要です。ですから、この取組と同時平行でやるということが、今求められています。そして、今（国道）2号線の高架事業が停止しているという状況ですので、それを再開するということを、しっかりと国にも認知してもらうことをやらないといけない局面だと思っています。そういう意味で、そういった取組を、しっかりやるという決意表明と受け止めていただきたいです。それが、局長の答弁ということです。

　ご質問の、いつを目途に出せるかという点ですけども、今申し上げたように、再開して（しっかりやって）いくぞという決意表明はできるのですが、実際、事業再開の決定権というのは、国にありますので、本市としてみれば、停止していたものをこれからやりますよということを、様々な事業と同時並行でやっていきますよということを国にしっかり届けるという行為の中で、できるだけ早く再開してもらいたいということを訴えるという状況です。いついつその決定が下りるなんてことは、ちょっと、現段階では言えないと思っています。ただ、気持ちはできるだけ早期に再開できるように様々な取組を進めていかなければと思っています。

記者

　関連なのですが、再開に向けた国との協議なのですけど、これについては、いつ頃を目途に協議したいとお考えですか。決意表明とおっしゃいましたけど、その辺りの決意を国の方に伝えられるのは、いつ頃お考えですか。

市長

　それは、段取りが整えばいつでも。もう事実上は、地方の整備局長にも申し上げていますし。正式な表明ということですか。

道路交通局長

　現在も協議はしていますけども。それを深めていく中で、具体的にどういった声が出てくるのかというのもあります。

市長

 　実際、お願いしていますし、判決もこうなってますでしょ。こういった考え方で取り組みますよということは、事務的に中国地方整備局を通じて本庁にも伝えています。動きを始めていますということなんですけど。

記者

　ちょっと確認させてください。年内とおっしゃったのは、何のことですか。

市長

 　正式に要請活動をやらなきゃいかんというのであればとのことです。事実上、（既に）言っています。例えば、皆さんに紹介して、こういう申し入れをしましたというのを写真に撮るような場面を作らなきゃいかんというのであればということです。それはなくても事実、動いていますから、いいんじゃないかと思ってます。